



南山城相談支援センターニュース

特集<特別支援教育の扉>

「わかってできる！」特別支援学校の教室環境の工夫の紹介②

特別支援学校では、子どもたち自身がやるべきことがわかって、自分で取り組める教室環境の工夫をしています。前回に引き続き、特別支援学校の教室環境の工夫を紹介します。

また、特別支援学級の、教室環境についての相談も受けていますので、お気軽にお問合せください。

朝のカバンの準備等を自分でできるようにする工夫



児童生徒が自分でカバンの片付けができるように、片付けの手順を視覚的に提示しています(一覧型手順表:写真右、めくり型手順表:写真中央)。子どもたちは手順表を自分で確認しながら、カバンの片付けをしています。また、写真左のように、片付けるかごに写真や文字をつけて、どこに何を片付けるのかわかりやすくすることも大切です。

着替えの練習のツール



特別支援学校では着替えやトイレなどの生活諸動作も授業の中で教えています。

左の写真は、着替えの手順を視覚的に示したものです。児童はこれを見ながら、毎日着替えの練習をしています。

一人一人にあった食器

給食の際は、児童生徒一人一人にあった食器を使用しています。右の写真は特別支援学校で実際に使用しているユニバーサルデザインの食器です。裏側にすべり止めがついていたり、食器の側面がスプーンで食べ物をすくいやすいようになっていたりします。



施設見学報告「京都府立京都障害者高等技術専門校」

京都府立京都障害者高等技術専門校に施設見学に行ってきました。

この施設は伏見区の市営地下鉄「くいな橋」駅のすぐ近くにあり、同じ敷地内に京都府立高等技術専門校が併設されています。

18歳以上の方で、知的障害、身体障害、精神障害、発達障害のある方が入学募集の対象者となります。現在4つのコースがあり、それぞれのコースで専門的な授業をされています。

施設内にはパソコンの練習をするための部屋があったり、介護や清掃等の実務を練習する部屋があったりして、就労に向けた学習をするための設備が整っていました。

1年間の学習期間の間に、それぞれのコースの専門的な学科や実習を学ぶとともに、社会に出た時に必要になる常識やマナー、健康管理や身だしなみについても授業をされています。

卒業後の就労についても、本人の希望や能力と仕事とのマッチングに力を入れておられ、将来の「働く生活」を目指す人にとって、心強い施設だと感じました。



冬の研修会の報告

毎年、南山城相談支援センターが事務局となり、地域の教育、医療、福祉、就労、就学前等の様々な機関が集まり協議する相楽地域特別支援連携協議会を実施しています。今年度は、その相楽地域特別支援連携協議会が主催になり、「冬の研修会」を実施しました。

研修会では、教育と福祉の連携をテーマに、就学時期の児童生徒が利用できる福祉サービスについての話を聞いたり、実際に利用されている方の事例を紹介していただいたり、福祉の担当者の方と交流をしたりしました。

研修会には、小中高等学校の特別支援教育コーディネーターや管理職の方を中心に参加していただきました。参加された方からは「多くの福祉関係の方のお話を聞いたり、意見交流をしたりすることにより、明るい方向性が見えた気がします」「事例をあげていただくことで、福祉機関の方がされている相談支援等のことがよく理解できました」等の感想をいただきました。

今後も、様々な機関が連携して地域の特別支援教育を総合的にすすめていけるように、取り組んでいきます。

